

■重踊流について■

「琉球舞踊 重踊流」は、志田房子（国指定重要無形文化財「琉球舞踊」（総合認定）保持者）を初代宗家とし、伝統を受け継ぐとともに、新たな作品の創作にも取り組んでいます。

■子の会について■

「子の会」は、国立劇場おきなわ組踊研修修了者で構成された会です。3年間の研修修了後も、互いに自らの技芸の向上を目指すことを目的に設立されました。組踊の伝承者としての活動を通して、文化遺産である組踊をはじめとする沖縄の伝統芸能の世界を多くの人に知ってもらい、それを次世代へ継承していくことに精力的に取り組んでいます。

■出演■

琉球舞踊「重踊流」 沖縄伝統組踊「子の会」

■琉球舞踊監修■

志田房子 国指定重要無形文化財「琉球舞踊」（総合認定）保持者

■組踊監修■

宮城能鳳 国指定重要無形文化財「組踊」（総合認定）保持者

■企画制作■

株式会社 BOX4628（ボックスよろづや）

「文化芸術による子供育成総合事業 - 巡回公演事業 -」

我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。

事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。

令和3年度

文化芸術による子供育成総合事業 一巡回公演事業一

おきなわ伝統芸能『琉球舞踊』と『組踊』

1部

◇ 琉球舞踊 上演作品 『四つ竹』 古典女踊り

◇ 琉球舞踊 上演作品の解説とおはなし

◇ 『沖縄ことばクイズ』『楽器紹介』

『沖縄音楽ミニコンサート』

◇ 『安里屋ユンタ』エイサー演舞発表コーナー

打って！唄って！踊ろう！

2部

◇ 組踊 上演作品のあらすじとおはなし

◇ 組踊 上演作品 『万歳敵討』 仇討物

（組踊：ユネスコ無形文化遺産）





りゅうきゅうぶよう

琉球舞踊とは

おきなわ めいじ ねん おきなわけん せっち
 沖縄は、1879(明治12)年に沖縄県が設置されるまで、
 りゅうきゅうおうこく どくじ ぶんか つく あ
 琉球王国として独自の文化を作り上げてきました。

その文化を受け継いだ琉球舞踊は次の3つに分けられます。

① りゅうきゅうおうちよう ぎしきよう おんがく しぞく はぐく
 琉球王朝の儀式用の音楽として士族によって育まれた

「古典舞踊」

② りゅうきゅうおうちよう ほうかい あと くてんぶよう きほん
 琉球王朝が崩壊した後に、古典舞踊を基本としてつくられた
 たいしゅうてき そうおどり
 大衆的な「雑踊」

③ せんご そうさくぶよう
 戦後につくられた「創作舞踊」

さんしん
三線



こきゅう
胡弓



こと
箏



ふえ
笛



ひらづりだいこ
平吊太鼓



しめだいこ
締太鼓

組踊とは

せりふ おんがく おど しょさ こうせい えんげき かぶげき
 台詞、音楽、踊り(所作)によって構成される演劇(歌舞劇)
 のことです。組踊は、りゅうきゅう いま おきなわけん しんこくおうにんしょう
 琉球(今の沖縄県)の新国王認証の
 ため中国から派遣された冊封使をもてなすために玉城朝薫
 ちゆうごく はけん さくほうし たまぐすくちようくん
 によってつくられ、1719年に初めて上演されました。

ちようくん りゅうきゅう げいのう のう きょうげん かぶぎ
 朝薫はこれまでの琉球の芸能をもとに能・狂言や歌舞伎、
 あるいは中国の演劇からヒントを得て、え りゅうきゅう のこ ふる
 あるいは中国の演劇からヒントを得て、琉球に残る古い
 でんとう できごと だいざい くみおどり つく あ
 伝説や出来事を題材に組踊を作り上げたのです。

ことし ねん くみおどり じょうえん ねんめ
 今年2021年は、組踊がはじめて上演されてから302年目
 となります。